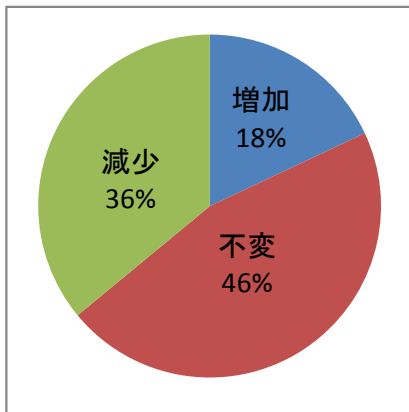


## ■ データから見た業界の動き

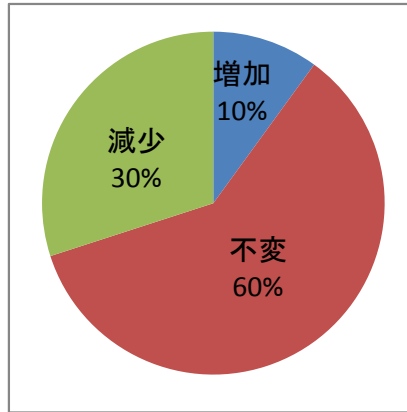
(平成25年7月分)

● 2012 / 7

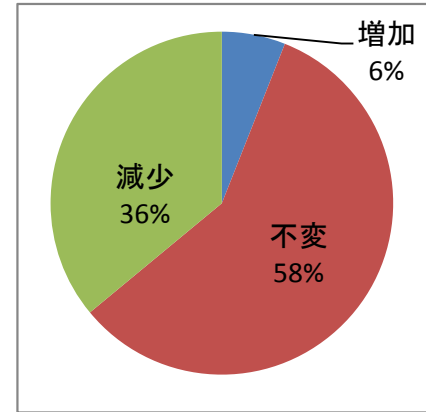
売上高 (前年同月比)



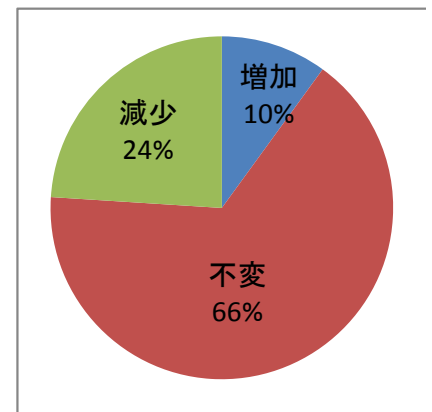
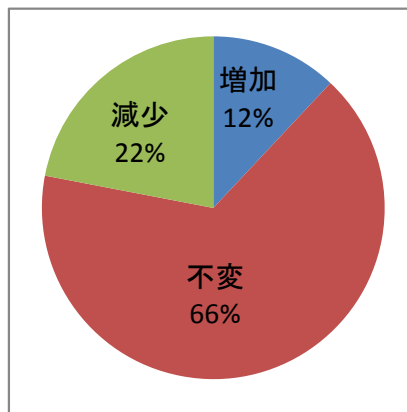
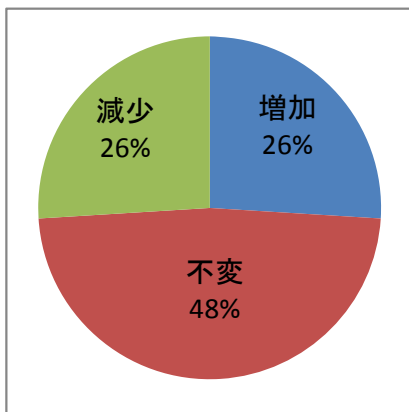
収益状況 (前年同月比)



景況感 (前年同月比)



● 2013 / 7



## ■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I値 (好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2012/7	2013/6	2013/7	2012/7	2013/6	2013/7	2012/7	2013/6	2013/7
売上高	5	-10	-25	-33	7	17	-18	0	0
収益状況	-15	-10	-10	-23	-27	-10	-20	-20	-10
景況感	-20	-10	-20	-37	-20	-10	-30	-16	-14

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100) = D.I値

## ■ 概 況

本県7月の景況は、全業種のD I 値が、売上高0（前年同月比+18）、収益状況-10（前年同月比+10）、景況感-14（前年同月比+16）となっており、前年同月比は全ての項目で大きく改善した。業種別のD I 値では製造業で、売上高-25（前年同月比-30）、収益状況は-10（前年同月比+5）、景況感-20（前年同月比±0）。非製造業で、売上高+17（前年同月比+50）、収益状況-10（前年同月比+13）、景況感-10（前年同月比+27）となった。

前月比では、製造業の収益状況は不変であったが、売上高は15ポイント、景況感が10ポイント悪化した。しかし、非製造業では、売上高が10ポイント、収益状況が17ポイント、景況感が10ポイントと全ての項目でD I 値が大きく改善した。

情報連絡員による県内の7月の業況報告は、2014年4月に予定されている消費税率引き上げの駆け込み需要が出ているが、原料やガソリン等の値上げがコスト上昇となり価格転嫁の難しい中小企業の収益悪化が懸念される報告が多く見られた。

製造業では、一部の業種からは好調の報告もあったが、「原材料も高騰のため仕入難となっている。」といった厳しい報告や「消費税増税を見据えた住宅関連の需要が増加している。」との報告もあった。

非製造業は、公共事業の執行が高まるにつれ建設業や警備業等、関連業種への業況の改善が広がりを見せているが、人手不足を懸念する報告があった。また、猛暑による農産物の収穫の減少による小売価格の上昇から消費者の買い控えを懸念する報告も見られた。

円安による悪影響が製造業に影を落としてはいるが、全体的に景況感の改善が表れてきた。連鎖効果による県内の景気回復に期待したい。

## ■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

### ● 製 造 業

食料品（水産物加工）	伊勢エビや鮑等の生鮮の取扱いが依然好調。全体の売上は、前年同月比112%。しかし、円安による輸入原料の高騰で利益率は低下。
食料品（洋菓子製造）	自社製品、OEM、輸出等、全ての項目が好調。全体の売上は、前年同月比111%。
食料品（菓子）	酷暑が続く、菓子の売上が落ちこんでいる。また、原料の値上げに加え包装資材等の値上げもあり、ますます利益確保が難しい。
食料品（ワイン）	日照りが続き、夜間の気温も下がらず原料となる葡萄の品質が懸念される。
木材・木製品製造	消費税増税を見据え仕事量が増加傾向にある。業者による木材持込のプレカット加工依頼が増加傾向にあるため自社の木材販売は売上が伸びない。
家具製造	消費税増税を見据えた住宅関連の需要が増加している。
一般機器	親会社より発注があるが納期が短いため苦慮している。
電気機器	大企業の収益は増加しているが、中小企業は未だ改善の兆しが見えない。
その他(宝飾)	高額商品が動き出したが、リストラ等で人員は縮小傾向にあり、原材料も高騰のため仕入難となっている。

● 非製造業

卸売（紙製品）	取扱い量の減少に伴い仕入れ競争が激化している。さらに、県外事業者が県内に事業所を開設したため、古紙回収の争奪戦が起こっている。
卸売（宝飾）	売上は、前年同月比110%。しかし、業況の好転までには至っていない。
小売（青果）	猛暑により農作物の生育や品質への影響が出ている。そのため、高値の取引となり、消費者の小売店離れが懸念される。
小売（食肉）	猛暑の影響により生肉市場は大幅減、惣菜部門は微増。中元ギフトも低調のため売上は減少。また、原材料・ガソリン等の値上げで利益確保も難しい状況。
小売（水産物）	売上不振が続いている。今後、消費税増税や電気料金等の値上の影響により組合員の廃業増が懸念される。
小売（石油）	エジプト情勢の混乱に伴うドバイ産原油価格の高止まりと、1ドル100円前後で推移している円安に伴う石油の調達コストの上昇、また、猛暑による需要増により元売各社は1リットルあたり7円値上げしたが、県内のガソリンスタンドは、1リットルあたり5円程度の転嫁しかできず経営が厳しくなっている。
商店街(1)	富士の国やまなし国文祭提案事業「2013オリオン・サマー・フェスタ」を7月1日～28日まで開催したところ、約5,500人の集客があった。しかし、組合員の売上増には繋がらなかった。
商店街(2)	消費低迷が続いている。新規開店も若干あるが、老舗の衣料品店等が相次いで廃業による閉店となった。
商店街(3)	大月阿波踊りも30年目を迎え記念事業として徳島から天水連を特別招待した。また、かがり火市民祭りも開催され、相乗効果により3万人の人出となった。
宿泊業	7月の宿泊数は例年並み。富士山世界文化遺産登録後、初めての夏休みに入ったが甲府周辺は誘客への取り組み不足か伸び悩んでいる。
美容業	来客数は、若干増加傾向にあるがヘアカラーやパーマなど単価増に繋がる施術を希望する客は少なくカットのみである。
廃棄物処理（事業系）	県内では、未だ製造業の低調さが続いているため、事業系の廃棄物の排出量も少ない。
廃棄物処理（産廃系）	市町村における処理費用に大きな格差がある。そのため、事業主との処理費用の交渉が複雑化するケースも少なくない。
警備業	公共事業の発注の増加に加え電柱の建て替え工事が昨年より倍増しているため、交通誘導整備員が不足している。
建設業（鉄構）	見積り物件は、増加傾向にある。但し価格が依然として低調のため受注できない。
運輸（タクシー）	売上は、減少傾向にある。景気が上向いたという話もあるが、県内のタクシー業界の業況は依然厳しい状況にある。
運輸（トラック）	貸切貨物は多少の忙しさがあつたが、猛暑の影響により県特産品の桃の出荷量は前年の半分と激減した。また、青果輸送を中心に行っている事業者も売上が減収傾向にある。